

議題 1

平成28年11月25日
教育企画課

広島市ハイスクールビジョン（案）について（報告）

1 広島市ハイスクールビジョン（案）の概要

資料1のとおり。

2 広島市ハイスクールビジョン ～広島市立高等学校の将来構想～（案）

別冊のとおり。

3 「広島市ハイスクールビジョン（素案）」に対する市民意見募集の結果について

(1) 募集期間

平成28年10月1日（土）から平成28年10月21日（金）まで

(2) 募集方法

- ア 市ホームページに掲載
- イ 広報紙「ひろしま市民と市政」（平成28年10月1日号）に掲載
- ウ 広島市教育委員会事務局及び公文書館に掲示
- エ 市政記者クラブに情報提供

(3) 応募結果（詳細は資料2のとおり。）

- ア 応募者総数 8人
- イ 意見数 20件
- ウ 寄せられた意見のテーマごとの分類

寄せられた意見のテーマ	件数
ビジョン全体・「Ⅰ ハイスクールビジョンの策定に当たって」に関するもの	3
「Ⅱ 広島市域内の高等学校の20年後の姿を見据えた今後の取組」に関するもの	9
「Ⅲ ハイスクールビジョンの実現に向け、目指す人間像と重点を置く教育」に関するもの	8

エ 寄せられた意見への対応

対応方法	件数
<input type="checkbox"/> 広島市ハイスクールビジョン（案）に盛り込むもの	1
<input checked="" type="radio"/> 今後の教育行政施策の参考とするもの	14
<input type="radio"/> その他（趣旨に賛同する意見など）	5

4 今後の予定

- 11月25日 教育委員会議で本ビジョン（案）を説明
- 11月末 策定・公表

本ビジョンに基づき、これまでいただいた市民意見等も参考に、「ハイスクールビジョン推進プログラム」を年度内に策定の上、魅力ある高校づくりを一層推進する。

広島市ハイスクールビジョン(案)の概要

資料1

I ハイスクールビジョンの策定に当たって

本市教育委員会では、これまで推進してきた「魅力ある高校づくり」の一層の充実に取り組むため、市立高等学校の将来構想となる「広島市ハイスクールビジョン」(以下「本ビジョン」という。)を策定し、今後の本市高等学校教育の基本方針を示します。

1 計画期間

平成28年度(2016年度)から平成37年度(2025年度)までの10年間。ただし、社会経済情勢の変化に柔軟に対応するため、5年経過した時点で必要に応じ、中間見直しを行います。

2 ハイスクールビジョン推進プログラムの策定

本ビジョンに基づき、各市立高等学校における学科、コース等の特色を生かした具体的な行動計画となる「ハイスクールビジョン推進プログラム」を別途策定します。

II 広島市域内の高等学校の20年後の姿を見据えた今後の取組

市立高等学校においては、「知識基盤社会」を担い、国際平和文化都市の理念の実現に寄与する人材育成を目指し、共通の取組として「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「広島らしい教育の推進」等に積極的に取り組んできました。

これからの本市の高等学校教育の一層の充実を図るためには、グローバル化や国の教育制度改革などを踏まえ、本市における県立・私立も含めた高等学校教育の在るべき姿を今一度捉え直し、20年後の市立高等学校の姿をイメージする必要があります。その上で、今後10年間程度は、まず、「魅力ある高校づくり」のソフト面の充実に向けて、探究を中心とし、主体的、対話的な「豊かで深い学び」による授業の実現やカリキュラム・マネジメントの推進のほか、教員の資質向上等に取り組めます。

また、併せて、市域の周辺部を含む県立・市立・私立学校の設置主体が、それぞれの特性を生かした多様な教育を提供しつつ公立・私立間及び県・市間の機能分担の在り方について幅広く議論する場を設定し、検討を進めます。

その後の平成38年度(2026年度)以降の10年間程度は、この検討結果を踏まえ、公立・私立間及び県・市間の質的・量的な機能分担を図り、各学科、コースの入学定員の調整や学校、学科の統廃合を行いつつ、より適正な市立高等学校の校数や規模、学科、コースを構築し、さらに質を重視した「魅力ある高校づくり」に取り組めます。

III ハイスクールビジョンの実現に向け、目指す人間像と重点を置く教育

1 広島市の高等学校教育が目指す人間像 「志高く、世界に誇れるまちHiroshimaを創造する人材」

2 重点を置く教育

(1) 全ての生徒が共通して身に付けるべき資質・能力の育成 <共通性の確保>

ア 市民社会の一員として参画し貢献する意識の醸成(人格形成・自己実現)

「共通性の確保」の観点から、まず、義務教育段階の取組の成果を発展させ、確かな学力、豊かな心、健やかな体をはじめとして、多角的・多面的に吟味し見定めていく力や創造力、情報活用能力、ICTを理解し使いこなす科学的素養など、これからの時代に求められる資質・能力を育みます。その上で、主体性や多様性を尊重する態度、他者と協働するためのリーダーシップやチームワーク、平和希求の心、社会に貢献する意欲といった資質・能力を育みます。

また、知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力や学びに向かう力を育みます。

イ 社会・環境の変化への適応に必要な力の育成

グローバル化や情報化が進展する社会の中では、先を見通すことが難しい状況が生じています。子どもたちが将来就くことになる職業の在り方についても、技術革新等の影響により大きく変化すると予測されており、これらに対応するための資質・能力を育みます。

また、将来にわたり活力ある社会を持続・発展させるため、これまで以上に重点的に一人一人の個性を生かしながら人間力を高め、社会の担い手として必要な力を育みます。

(2) 多様な学習ニーズへのきめ細かな対応 <多様化への対応>

一人一人の生徒の進路に応じた多様な可能性を伸ばす「多様化への対応」の観点からは、学び直しや優れた才能・個性を有する生徒への指導・支援など、様々な幅広い学習ニーズを踏まえ、各高等学校が、それぞれの学校や学科の特色に応じた魅力ある教育課程を編成・実施します。

また、多様化への対応を実効性のあるものとするために、国の施策や全国の高等学校等での先進的な取組における成果等も踏まえながら、生徒一人一人の多様な進路に応じた教育に重点を置くこととします。

3 共通性を確保した上で提供する多様な教育の方向性

課程	科・コース	20年後のイメージ	今後10年間に、共通性を確保した上で提供する多様な教育の方向性
全日制課程	普通科 普通 国際コミュニケーションコース 芸術コース、体育コース	高等学校の各学科、コースについては、公・私間、県・市間の機能分担に基づき、入学定員の調整や学校、学科の統廃合を行う。 そのため、広島広域都市圏を見据えた市立高等学校の適正な校数や規模、学科、コースを構築し、さらに質を重視した「魅力ある高校づくり」に取り組む。	将来、多様なキャリアを形成して国際社会で活躍する人材や、地域社会に根ざし郷土に貢献する人材を育成する。 大学や専修学校等を卒業後、グローバル・リーダーとなる人材のほか、培った技術や知識を地域の産業、まちづくり、観光の振興、福祉や教育の充実、情報化の推進等のために還元することのできる人材を育成する。その際、生徒の志やスキルに応じて自ら進路を選択し、拓くために必要な力を身に付けさせる。
	専門学科(商業、工業)		大学との連携や、その道に優れた講師の招へい等により、生徒個々の才能を引き出しながら専門的スキルや競技力を向上させ、各分野において国内外で活躍する人材を育成する。 地域経済の変化に即応し、地元製造業やサービス産業等のニーズに応じた、地域産業界の中核となるスペシャリストを企業と連携して育成する。
定時制課程及び通信制課程	新しいタイプの高等学校(平成30年度開校予定)		課程の枠組みに捉われないフレキシブルな学びの実現を図り、再チャレンジや学び直しが可能で、他者と協力・協働して社会に参画し、自ら主体的にキャリア形成できる人材を育成する。
中高一貫教育			6年間を通して高度な英語教育等を提供し、大学卒業後には、英語によるコミュニケーション能力や高い理想と品格を備えたグローバル・リーダーとして国内外で活躍する人材を育成する。

「広島市ハイスクールビジョン（素案）」に対する市民意見募集の結果について

＜ビジョン全体・「I ハイスクールビジョンの策定に当たって」に関するもの＞

頁	意見の趣旨・概要 □：広島市ハイスクールビジョン（案）に盛り込むもの ◎：今後の教育行政施策の参考とするもの ○：その他（趣旨に賛同する意見など）	広島市の考え方
全体	○ 全体としてよくまとめられている。特に、少子化の進展の中で市立高等学校の担うべき役割についてわかりやすく述べられている。	今後、少子高齢化が更に進行することが予想される中、新しい時代にふさわしい高等学校教育のイメージが湧きやすくなるよう心掛けました。
全体	◎ 高校は、全員がやりたいこと、就きたい職業を見つけることができる場であってほしい。仲間と楽しく、したいときに学習ができ、社会人としてのマナーなども身に付けることができることとよい。全ての人が自分の目的を果たせるようバックアップする高等学校にしてほしい。	一人一人の生徒の幅広い学習ニーズを踏まえ、各高等学校が、それぞれの学校や学科の特色に応じた魅力ある教育課程を編成・実施する中で御提案の内容について取り組んでいきます（素案P.9）。
1	◎ 高等学校教育は「義務教育の基礎の上」に成り立つという認識で計画が立てられているが、学力が不安定な生徒も見受けられることから、基礎基本の定着は継続して取り組んでいただきたい。	

< 「Ⅱ 広島市域内の高等学校の20年後の姿を見据えた今後の取組」に関するもの >

頁	意見の趣旨・概要 <small>◎：広島市ハイスクールビジョン（案）に盛り込むもの ○：今後の教育行政施策の参考とするもの ○：その他（趣旨に賛同する意見など）</small>	広島市の考え方
5	○ 少子化の中で、1学年当たりの学級数を適正規模にすることは賛成。	市立高等学校の適正規模については、学校や地域の特性・実情により一概に論ずることが困難であることから、本市の高等学校における生徒数や学級数等の適正規模について、具体的な数値で示すことはしていません。
5	◎ 「適正規模」とあるが、広島市の高等学校の「適正規模」は、示さないのか。	
6	◎ 「真の学力」の育成には、評価方法の確立、普及が不可欠である。「新しい学力評価の研究と普及のためのプロジェクト」といった具体的な記述があるとよい。	<p>評価方法の確立・普及については、平成31年度（2019年度）から導入予定の高等学校基礎学力テスト（仮称）や、平成32年度（2020年度）から導入予定の大学入学希望者学力評価テスト（仮称）、平成34年度（2022年度）から段階的に移行していくことが予定されている高等学校学習指導要領の趣旨等を踏まえ、必要な教育内容、学習・指導方法、教育環境と共に、転換を検討する必要があると考えています。</p> <p>今後は、御提案いただいた内容も含め検討課題とさせていただきます（素案P. 6）。</p>
6	◎ 「広島広域都市圏内における公立・私立間の役割分担の在り方等について長期的な視点から取り組む必要性などに関する議論が行われている」とあるが、市立高校の学区を広域都市圏まで拡大することまで検討しているのか。	<p>現在、広島市総合教育会議において、「将来の生徒数の減少をも見据え、的確に対応していくために中・長期的な視点に立った広島広域都市圏内における戦略的な施策展開と連動させながら、公立・私立の受入体制等の在り方について検討を進めるとともに、公立・私立それぞれが特性を生かし、個性を最大限に生かす教育を提供するための環境を整備する」ことが必要である旨、本市教育大綱に盛り込むための議論が行われています。</p> <p>今後、同会議での議論の状況を踏まえつつ、県市の総合調整や広域都市圏の担当部署等とも協議の上、同都市圏の公立・私立間及び県・市間の機能分担の在り方を幅広く議論する場の設定方法等について検討していきたいと考えています。</p>
6	◎ 「広島広域都市圏内における公立・私立間の役割分担の在り方等について長期的な視点から取り組む必要性などに関する議論が行われている」とあるが、具体的にどのような議論がなされているのか。	
6	◎ 「県・市間の機能分担の在り方」とあるが、どのような分担を想定しているのか。	

頁	意見の趣旨・概要 □：広島市ハイスクールビジョン（案）に盛り込むもの ◎：今後の教育行政施策の参考とするもの ○：その他（趣旨に賛同する意見など）	広島市の考え方
6	◎ 「ソフト面の充実」について、「豊かで深い学び」の実現に向けて、ICT環境の整備が必要であると考えます。	探究を中心とした対話的、主体的な学びである「豊かで深い学び」の充実に向けた取組等を進める中で、御提案のICT環境の整備や研修等の充実について引き続き検討します。
6	◎ 「20年後の姿を見据えた今後の取組」について、教員の資質向上が重要と考える。教員の世代交代が進む今を好機と捉え、「豊かで深い学び」の実現に向け意欲をもって指導方法を模索する教員を中心に位置づけ、研修等を充実させてもらいたい。	
6	◎ 今後ますます科学技術が発達し、就職した後も高度な先端技術を身に付けなければならなくなる可能性が高い。働きながら高等教育機関で学べるような夜間大学、大学院の設置など、生涯を通じて学び続けられる環境を高校生に示していただけるとありがたい。	技術革新等の影響による社会・環境の変化への適応については、先を見通すことが難しい状況にあってもこれまで以上に重点的に一人一人の人間力を高め、社会の担い手として必要な力を育む中で取り組んでいきます（素案P. 9）。

＜「Ⅲ ハイスクールビジョンの実現に向け、目指す人間像と重点を置く教育」に関するもの＞

頁	意見の趣旨・概要 □：広島市ハイスクールビジョン（案）に盛り込むもの ◎：今後の教育行政施策の参考とするもの ○：その他（趣旨に賛同する意見など）	広島市の考え方
8	◎ 広島市の高等学校教育が目指す人間像「志高く、世界に誇れるまち Hiroshima を創造する人材」の「Hiroshima」がローマ字なのはなぜか。	市立高等学校で学んだ生徒たちが、国際社会で活躍する人材や、地域社会に根ざしつつ世界へ向けて発信する人材となるように、との将来展望をローマ字で表現しました（素案P. 8）。
8	○ これまでの「広島らしい新しい教育」の推進、充実を図りながら、「新しい時代にふさわしく、人間力を高める高等学校教育を通じて育成する人間像」として本市高校教育の理念を掲げており、ビジョンとしてふさわしいものになっている。	広島市の高等学校教育が目指す人間像に掲げた「志高く、世界に誇れるまち Hiroshima を創造する人材」の育成を目指し、市民の期待に応える「魅力ある高校づくり」に努めます。
8	□ 今後、益々、人間にしかできない創造性の発揮が求められる時代となっていく。「21世紀型スキル」の重要性に鑑み、全ての生徒が共通して身に付けるべき資質・能力として、「創造力」を追加してはどうだろうか。	近年、国の研究機関等が子どもたちに身に付けさせたい「資質・能力」を様々な形で示しています。本ビジョン素案の作成に当たっても、重点を置く教育を検討する際、それらの資質・能力を参考にしてきました。御提案いただいた「創造力」は、これからの時代に求められる思考力に関連するものですが、御指摘のとおり、現時点の素案にはその記述がないことから、確かな学力、豊かな心、健やかな体をはじめとする、これからの時代に求められる資質・能力として「創造力」を追記することとします（素案P. 8）。
8	○ 高校進学率が95%を超えているという現状であり、日本では高等学校で初等中等教育を完結させることが当たり前になっている。「重点を置く教育」が「全ての生徒が共通して身に付けるべき資質・能力の育成」と「多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応」として整理されており、新しい時代にふさわしい高等学校教育の実現に向けた方針が明確になっていてわかりやすい。	広島市の高等学校教育が目指す人間像に掲げた「志高く、世界に誇れるまち Hiroshima を創造する人材」の育成を目指すためには、「共通性の確保」と「多様化への対応」の観点を軸とする高等学校教育の提供が必要であることから、これを踏まえた項目分けに努めました。

頁	意見の趣旨・概要 □：広島市ハイスクールビジョン（案）に盛り込むもの ◎：今後の教育行政施策の参考とするもの ○：その他（趣旨に賛同する意見など）	広島市の考え方
9	○ 「社会・環境の変化への適応に必要な力の育成」については、非常に大切な視点だと思ふ。一人一人背景の異なる生徒の希望進路の実現を支援する取組を期待している。	生徒一人一人の多様な進路に応じた教育に重点を置くため、国の施策や全国の高等学校等での先進的な取組における成果等も踏まえて対応していきます。
9	◎ 「多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応」に向けて、普通科という概念を根底から見直し、将来の自己実現の選択肢を広げる独自の高等学校を設置することも考えていただきたい。	<p>これからの本市の高等学校教育の充実を図るため、今後10年間程度は「魅力ある高校づくり」のソフト面の充実を図ります。</p> <p>また、併せて、市域の周辺部を含む県立・市立・私立学校の設置主体が、それぞれの特性を生かした多様な教育を提供しつつ公立・私立間及び県・市間の機能分担の在り方について幅広く議論する場を設定し、検討を進めることとしています。御提案いただいた普通科の在り方についても、その中で検討するよう考えています（素案P. 6）。</p>
10	◎ 教育課程を充実（道德教育、ボランティア活動、哲学教育、芸術教育、体験活動等）させてほしい。	各校の特色を踏まえた具体的な取組については、現在策定作業中の「ハイスクールビジョン推進プログラム」（計画期間：平成28年度（2016年度）から平成37年度（2025年度）までの10年間）の中で示すよう考えています（素案P. 3）。
10	◎ 「共通性を確保した上で提供する多様な教育の方向性」の各課程、学科、コース、学校はよく整理されているが、もう少し各校の特色を踏まえた具体的な方向性を示してもらえるとイメージしやすいと思う。	